

大谷教師塾 教員養成ナビゲータ

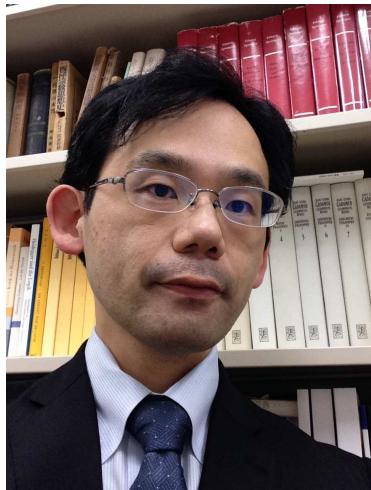
大谷大学
教職支援センター

第110号

2015. 12. 10

教師になろう！

大谷大学 文学部 教育・心理学科
准教授 田中 潤一



みなさんの多くは、教師になることをめざして大谷大学に入学してこられました。

きっかけとしては、「小学校の時の先生のようにになりたい」「子どものよろこぶ顔を見たい」「教えることが好き」など、いろいろな理由があったと思います。

もちろん大学で教育の勉強を積み重ねると、教師の仕事は楽しいことばかりでなく、苦勞が多いことも学んだと思います。それでもやはり、「教師になりたい！」という人がほとんどだと思います。ぜひその夢を実現させましょう。

それでは「夢」はどのようにすれば実現するのでしょうか？ここでは3つのポイントをみなさんに提示したいと思います。1つ目は「常に子どものそばにしよう」、2つ目は「地道にコツコツ勉強する」、3つ目は「お互いに高め合える友人をつくる」です。

1つ目の「常に子どものそばにしよう」は、できるだけ児童生徒と接する機会を持ってほしいということを意味しています。日常生活で、疲れることや嫌になることも多々あります。しかし、子どもたちの顔や現実の教育現場を見れば、そんな疲れはちっぽけなことに思えるでしょう。教師塾や学校ボランティア、さらに学内の「お

たにキッズキャンパス」など子どもと触れ合う機会を自分から積極的に探してください。子どもと触れ合うことで、多くのことが学べます。

2つ目の「地道にコツコツ勉強する」は、教員採用試験対策をしっかりとしてほしいという意味です。どれだけ子どもが好きでも採用試験に受からないと教員にはなれません。教職教養、一般教養、全科もしくは専門教養、模擬授業、個別面接、集団討論など、試験対策でなければならぬ勉強は数多くあります。時間を作って計画的に対策を始めてください。私のゼミ生で、採用試験対策のためにアルバイトをやめた人もいます。また教採は単なる「受験勉強」ではありません。教員になった後に役立つ、「基礎力」です。学内の学習会や勉強会には、遠慮せずに参加し、毎日自分で時間を決めてコツコツと勉強しましょう。

最後に強調したいのが、3つ目の「お互いに高め合える友人をつくる」です。勉強は孤独なものです。一人で勉強していると、つい遊んでしまったり、さぼってしまうこともあると思います。そんなとき、まわりに一生懸命勉強している友人がいれば、「こんなことではだめだ」と思わざるを得ないですね。そのような「同じ夢」を持つ友人と一緒に、会話や食事をするうちに、自然と自分も向学心が高くなってきます。

志を高く、自分を律して（たまには休みを取りながら）、「教師という夢」に向かってください！

《こんな先生になります》

() 採用自治体

児童の夢を育む先生に

やすだ ゆうと
教育・心理学科 安田 雄斗 (豊能地区)

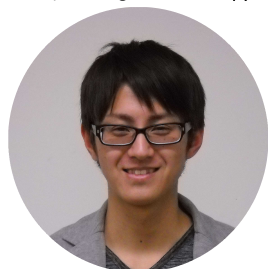


私は、子どもたちに「将来に向けての夢を持ってほしい」と願っています。そのためのプラン作りを支援し、学習環境を築いていきたいと考えています。

「一人一日一発言」を実践し、子どもの思いを大切に受け止め、自由に発言できる学級を目指します。先生と子どもたちが力を合わせて元気ある元氣なクラスづくりを目指していきたいと強く思っています。それぞれの自分の夢に一年間向き合わせることによって、「自分は、どうするか」を考えさせます。そんな経験をするによって、目標が生まれ行動できるようになると考えています。そのための教師の工夫を授業や声掛けに生かしていきます。

子どもの心の成長を支援できる先生に

いしぐろ まさひろ
教育・心理学科 石黒 雅大 (大阪府)



私は、学校ボランティアや水泳コーチを通して多くの子どもたちと出会い、接してきました。この間、子どもたちは様々な出来事を経験し、喜び、時には悩み葛藤しながら成長していくことに、私は気づきました。ほんの1週間という短い間でも、子どもは学び成長していきます。目に見えない心の内面も、友だちや先生との関わりを通して確実に成長していくのです。こうして得た成長こそが、大変重要なものではないかと、私は考えます。

私は、子どもたちに「思いやりの心」を持って人とのつながりを大切にしながら人生を歩んでほしいと思います。私は、子どもたちの心の成長を支援できる先生になります。

子どものために「一生懸命」になれる先生に

とのむら なお
教育・心理学科 殿村 奈緒 (京都府)

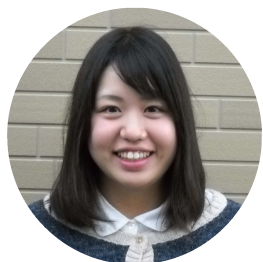


私は、学校での活動の多くを子どもと共にしたいと考えています。京都府教師塾の実習で一年生の教室に入りました。昨日までできなかったことが、日々の学習を通してどんどんできるようになっていく成長の様子をたくさん見せてくれました。できた瞬間に見せる子どもたちの喜びいっぱいの笑顔を見たときに「教師のやりがい」をあらためて感じました。

来春四月からの教師という責任の大きさを考えると不安もありますが、子どもと共に喜び、楽しむことを忘れず、目の前にいる子どもたちのために「一生懸命」になれる先生になります。

謙虚な気持ちを忘れず 学び続ける先生に

きのした かな
教育・心理学科 木下 可菜 (京都府)



教育実習や学校ボランティアの経験の中で、子どもたちの成長を目の当たりにできる機会を幾度も持ちました。そして、たくましく変化していく子どもたちの姿に接して感動を多くもらいました。これらの貴重な経験から、日々大きく変化していく子どもたちと共に、私も共に成長できる教師でありたいと思うようになりました。

子どもを取り巻く環境の変化の中、子どもたちは喜びや悲しみ、希望を感じながら学校生活をおくります。私は、子どもの思いにできるだけ応えられるように、時には子どもから、時には先輩の先生方から多くを学んでいきたいと考えています。そのためには謙虚な気持ちを持つ必要を感じています。学び続けることによって、子どもたちの成長を支える先生になります。

子どもに寄り添う姿勢を忘れない先生に

はやかわ くみこ
教育・心理学科 早川 久美子 (滋賀県)



私は、子どもたちに寄り添いながら、子どもたちが主体的に活動できる保育を目指します。子どもには、見て、触れて、感じた感情や感動を表現できる場が必要です。そして、受容され、共に共感できる経験を通して成長します。幼児期は、人格形成の基礎となる時期であり、新たな芽生えや発見を得たり興味・関心の幅を広げたりして成長するときです。

私は、この大切な時期の子どもに寄り添う姿勢を忘れない先生になります。

子どもたちに信頼される先生に

ふるた だいき
教育・心理学科 古田 大樹 (滋賀県)



信頼されるためには、困難を乗り越える努力が必要であり、学び続けることが大切だと考えています。信頼を得るために、子どもたち一人一人を知ることから始めます。コミュニケーションを大切にするために、できる限り会話の時間を設け、多くの関わりを持つことに努めます。同時に、授業の充実を図り、子どもたちにとって「わかる授業」を目指します。魅力的な授業は、子どもたちを意欲づかせ、主体的な活動へとつながっていくと考えるのです。

わたしは、子どもたちに信頼される先生として、常に学び続けます。

子どもたちへの熱い思いと深い愛情を持った先生に

きもと れい
文学科 木本 黎 (大阪府)

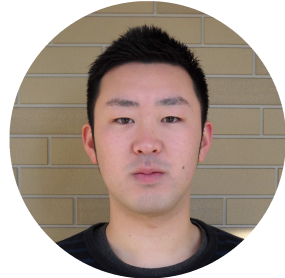


私は、中学・高校・大学とバレーボールを続けてきました。高校では、キャプテンとなり、チームをまとめる役割になりました。毎日が課題に追われ、それをこなすだけで精一杯の日々を過ごしていました。ある日、部員の不満が爆発したとき、私はそれをまとめることができませんでした。そんな時、顧問の先生は、私の思いを丁寧に聞いてくださり、先生の私たちに対する熱い思いも伝えてくださいました。その熱心な先生の表情や指導に心打たれました。

私は、あの顧問の先生のように熱血で、深い愛情を持った先生になります。

何事も「一生懸命」に行動し学び続ける先生に

ならはら けんしょう
教育・心理学科 檜原 見正 (大分県)

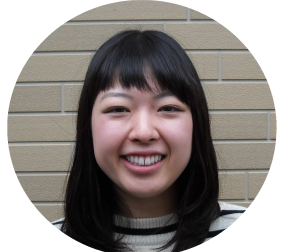


私のこれまでの人生は、壁にぶつかることが多く、あまりスマートとは言えません。完璧な人間ではないのですが、何事にも「一生懸命」に取り組んできました。そんな後姿を子どもたちに見せたいと考えています。また、私の教育実習担当の先生は、授業力も生徒指導力も素晴らしい先生でした。多くのことを教えていただいたのですが、忘れられない言葉があります。「自分は、まだまだ力不足です。まわりの先生には、学ぶところがたくさんあります。」と、謙虚に言われていました。「今の自分に満足せず、学び続ける姿勢」を私に見せてくださいました。

私は、どんなことでも「一生懸命」に行動し、学び続ける先生になります。

目配り、気配り、耳配りのできる先生に

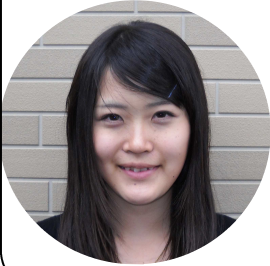
きたがわ ゆうみ
教育・心理学科 北川 祐観 (滋賀県)



私の幼稚園時代の先生は、「わたし」という人間の基礎を育ててくださいました。両親以外の人で、お世話になったことを私は、忘れることができません。それ以来、「あの先生のようにになりたい」と強く思い、教師を目指してきました。今、その先生と同じ幼稚園教諭を選び来春から働きます。教えていただいた「笑顔だけは忘れない」「寝るるとき、叱るときは、しっかりと」「子どもの安全第一」など、思い出しながら努力します。

私は、目配り、気配り、耳配りのできる先生になります。

子どもを信じ、その可能性を伸ばす先生に

はしうち ともこ
教育・心理学科 橋内 智子（京都市）

子どもは、皆大きな可能性を持っています。「教師は、その力を信じて支え・伸ばしていくこと」と、私は考えています。

学校現場で接した子どもたちの中に、「自分の気持ちや思いを上手に周囲の人に伝えることの苦手な子」や「自分自身に自信が持てない子」がいました。子どもたちは、それぞれに悩みを抱えているのですが、そのことを周りに解ってもらえない現実がありました。教師だからこそ、この状況を把握し改善していく必要があると考えました。子どもを深く理解し、子どもの持つ力を信じることが大事だと感じています。私は、子どもに寄り添い、子どもを信じ、子どもの持つ可能性を伸ばすことのできる先生になります。

与えられた45分の授業に責任を持てる先生に

いわさき さえ
教育・心理学科 岩崎 冨（京都市）

教育実習で初めて子どもたちの前で授業をした時、教材研究の大切さを痛感しました。「学力をつけること・意欲を持って活動させること」は、とても大変なことだと感じたのです。教師は、研究し続けなければならないと改めて思いました。

教師の本質は、授業力だと考えます。目の前の子どもたちが、私に与えてくれる45分間の授業は、大切にしなければなりません。1分1秒をかけがえのない時間にするために子ども理解と教材研究は、怠ることなく続けていきます。貴重な45分間の授業に責任を持って取り組める先生になります。

人とのつながりを大切にする先生に

おきた しゅん
教育・心理学科 沖田 駿（大阪府）

私は、今までに多くの人と積極的に関わってきました。学校ボランティアで子どもたち、先生方、地域・保護者の皆さん。アルバイトでのお客さん、スタッフのみなさん。それぞれに繋がりを強めてきました。その中で、「三つの大事」を見つけました。

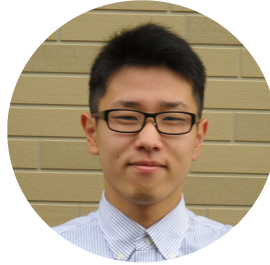
一つは、「相手の思いをしっかりと受けとめる姿勢を持つこと」

二つは、「謙虚な気持ちで、人と接すること」

三つは、「誠実に行動すること」です。

以上の「三つ」を持ち続け、人との繋がりを大切にして、明るく、元気よく支援、指導ができる先生になります。

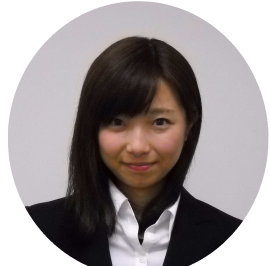
一人ひとりの子どもに寄り添える先生に

ほんじょう たかひろ
教育・心理学科 本城 貴寛（京都市）

子どもたちは、めまぐるしく変化する社会の中を生き抜くために、多くの試練を乗り越えなくてはなりません。そのために教師は、一人一人の子どもを理解・支援していく必要があります。教育実習や学校ボランティアの学校現場体験で、「人間関係で悩む子」「発達に課題のある子」「学習で困っている子」などの子どもに出会いました。関わりを重ねていく中で、私は、「子どもに寄り添うこと」の大切さと難しさを知りました。

私は、これまでの貴重な経験を生かし、しっかりと教師としての自覚と責任を持って、一人ひとりの子どもに寄り添い、「子どもの思い」を大切にできる先生になります。

子どもたちに熱い思いを持ち続けられる先生に

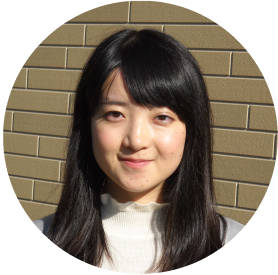
いちばら もえ
教育・心理学科 市原 萌（京都府）

四年間の学校ボランティアで、多くの子どもたちと関わることができました。そのおかげで、子どもたちに「こうなってほしい」という熱い思いが持てるようになりました。さらに「自分のできることは何か」を常に考えるようにもなりました。

教壇に立つ時、私は「人を育む立場」であることを自覚し、子どもたちの思いをしっかりと受け止めようと考えています。そして、子どもたちに即した教育を行おうと考えます。一人一人の子どもたちが、「見守られている」という安心感を持って、のびのびと学べる学級をつくります。私は、子どもたちに熱い思いを持ち続けられる先生になります。

思いやりを持って子どもに寄り添う先生に

ふくだ さやか
教育・心理学科 福田 彩也香（茨城県）

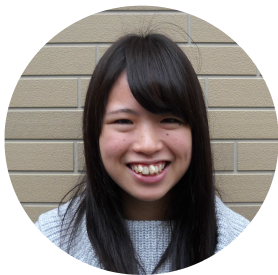


私は、幼稚園・小学校から大学まで、多くの先生に出会い教育を受けてきました。中でも小学校の教師に憧れを持ちました。六年の長い間、子どもの成長を見守ることができるとても魅力的な仕事です。できないことの方が多かった子どもたちが、力強く育っていきます。そんな出会いを「すばらしい」と感じています。

4月から、教師として子どもたちの前に立ちます。私にとって未知の世界ですが、ワクワクした気持ちで待っています。子どもたちに思いやりを持って関わり、寄り添うことのできる先生になります。

子どもたちの見本になる先生に

まつむら あやな
教育・心理学科 松村 綾菜（滋賀県）



私は、子どもたちから「先生のような大人になりたい」と尊敬の念と憧れを持たれる教師になろうと考えています。そのために、心がけたいことが二つあります。

第一は、いつも笑顔で子どもに接します。笑顔は、子どもに親しみやすさと安心感を与えます。笑顔で接することで、話しやすい雰囲気をつくり、心と心の触れ合いが生まれます。第二は、何事にも本気で取り組みます。子どもたちの毎日は、「教科の学習」「逆上がり」「みんなの前で話すこと」など「できないこと」「難しいこと」に出会います。時には、「先生にもできないことがある」ことを正直に見せながら、私自身が努力の姿勢を示すことで、子どもたちを支え、励ましたいと考えています。

私は、子どもたちの見本になる先生になります。

教職をめざす3年生の皆さんへ

教職支援センター アドバイザーから

今年度、受験者の一人が「採用試験に一番大切なのは、作った自分ではなく、ありのままの自分を出すことだと思う。」と言っていました。素晴らしい言葉だと私は思いました。そう言い切るためには、自分自身を磨かなければなりません。特に教員に必要な力の一つがコミュニケーション能力です。皆さんに学生の間でできるだけ多くの人と話をすることを勧めます。世の中には、様々な環境や条件の中で生活し、いろいろな考え方もつ人がいます。家族や地域、アルバイト先などを含め積極的に人と接して、自身の人間としての幅を広げてください。教員採用試験にも、また教員になってからも必ず役立ちます。

私たちアドバイザーは教員を目指す皆さんに様々な助言をしますが、それは採用試験に合格するためだけではありません。学校現場で起こる問題を想定し、実際に教員になったときに求

められる姿勢や必要な力を伝え、こんな先生になってもらいたいという気持ちで接しています。できる限り早い時期から回数を重ねてアドバイザーを訪ねてください。教員はやりがいのあるとても素晴らしい仕事ですが、教員になると間違いなく難しい課題に直面します。アドバイザーが時には耳の痛い厳しいことを言うこともありますが、必ず今後に生きると思います。くじけずに粘り強く歩んでくれることを願っています。

本学の教職支援センターには4人のアドバイザーがいて、いつでも相談ができ、大変に恵まれた環境だといえます。教職支援センターの利用頻度が高い学生ほど、採用試験の合格率が高い傾向も感じます。多いに当センターを活用し、「教員になる！」という夢を「ぜひとも」実現させてください。応援しています。

教師をめざしている皆さんへ

大谷大学 文学部 教育・心理学科

講師 井川 利尾



「教室ってどんな場所ですか」と聞かれたら皆さんはどう答えますか？

「勉強する場所」や「友達と楽しくお話をする場所」, 「給食を食べる場所」などいろいろな答えが返ってくると思います。

教室は、子どもたちの生き生きとした表情や表現に溢れています。また学ぶ喜びの中で友達とともに自分の夢を実現しています。このような教室にするために教師は、子どもたち一人一人が教室の中に自分の居場所があり、安心できる環境をつくっていかねばなりません。そこで子どもたち一人一人が「かけがえのない存在として認められている」と実感するために、次の2つのことを念頭において子どもたちを育ててほしいと思います。

1つ目は、「自己肯定感」を育むことです。これは、「自分のことが好き」と思う気持ちです。「いろいろ欠点もあるけれど、今の自分が好き」という感情のことです。自分らしく生きていくために自分を知り、自分を好きになり、

自分を大切にすることです。自分のことを大切に思うことが、相手のことを大切にしようという気持ちにつながります。

2つ目は、「コミュニケーション能力」を高めることです。これは、人と人との関係の中でお互いの立場を尊重しながら言語を通して適切に表現し理解する力です。つまり相手への思いやりの気持ちを忘れず自分の考えや思いをはっきりと自己表現する力です。相手を理解しようとするときは、言葉だけでなく、態度や表情も含めて本当の思いを聞き取ろうと努力することも大切です。

造形活動でも、「自分のイメージ」をもつことや「自分の感覚や活動」を通して表現しています。さらに見たこと、感じたこと、考えたことなどを友達と話し合う活動を通して、表現の意図や特徴をとらえようとしています。主人公は「子ども」なのです。

子どもたちが、自分のことを好きになり、友達とうまくコミュニケーションを取り、いつも笑い声に優しく包まれている。そしてその輪の中にいつも入っていて「あなたが大切です」とメッセージを送る教師。このような教室を目指してほしいと思います。

教職支援センター 今後の予定

- 2月 春の面接セミナー（2回講習 要申込み） [3年生対象]
 1回目（60分） 面接試験の視点、面接内容、その他
 2回目（120分） 個人面接実習（グループ別）
- 3月 春の志願書記入説明会（地域別、事前申し込み不要） [3年生対象]
 ○ 滋賀県・大阪府・大阪市・豊能地区・堺市
 ○ 京都府・京都市
 ○ 兵庫県・神戸市・その他の地域
 内容 ・志願書について
 ・志願書作成 教師像・自己PR作成
- 4・5月 各自治体教員採用試験説明会（掲示板で日時を確認） [全学年参加可]
 昨年来校自治体 京都府・京都市・大阪府・大阪市・滋賀県
- 4月～ 教員採用試験直前講座（10回、要申込み） [4年生対象]
 面接（個別、集団）・集団討論・論作文



積極的な参加を呼び掛けます。仲間と励まし合い、
刺激し合って学習を重ねましょう。